

記者資料提供（平成31年3月8日）

地方独立行政法人神戸市民病院機構

（公表事案について）

神戸市立西神戸医療センター事務局総務課 奥田・藤井

TEL：078-993-3706

（公表に関する指針について）

法人本部経営企画室総務課 藤原・伊藤

TEL：078-940-0156

神戸市立西神戸医療センターにおける院内感染について

今回の事例に関しては、公表が他の医療機関の院内感染防止に資すると判断される事例と判断したために公表いたします。

なお、公表に当たっては患者さん及びご家族が特定・識別されないよう、個人情報の保護に最大限の配慮を行いつつ、事案の内容について一定の範囲で公表を行っています。

【公表事案】

発症日：平成31年1月30日

診断日：平成31年2月1日

発生場所：神戸市立西神戸医療センター

発生状況と経緯

平成30年12月に多発脳梗塞で入院し、血液疾患により免疫抑制剤を投与中の患者（神戸市内在住、70歳代女性）について、1月30日から発熱、1月31日に呼吸苦等が出現し肺炎と診断され、2月1日にレジオネラ尿中抗原陽性を確認したため、レジオネラ肺炎の治療を開始したが、その後も状態が改善せず死亡された（感染症法に基づく保健所への届出を実施）。

検体検査の結果、2月19日に患者の喀痰と洗髪等のケアに使用した蛇口から採取した湯から同種のレジオネラ菌の検出が確認され、患者の入院経過から院内感染と判断した。

発生後の対応

2月19～21日の3日間、すべての患者の入浴・シャワーを中止し、感染源と考えられる給湯システムの殺菌・消毒を実施した。また、すべての個室のシャワーヘッドとホースを交換したほか、関連設備の塩素消毒を実施した。

なお、殺菌・消毒後の再検査の結果、レジオネラ菌の検出は認められず、また他の入院患者についても、新たな感染がないことを確認した。

今後の対策

定期的なレジオネラ菌検査の実施や給湯設備の温度管理を徹底し、これまで以上に感染防止対策に取り組んでいく。

※レジオネラ菌について

レジオネラ菌は、土壌細菌で土壌・河川・湖など自然環境に広く分布する。

レジオネラ肺炎はレジオネラ菌を含んだエアロゾル（飛沫）を吸入することで引き起こされる。肺炎は認められなくてもポンティアック熱という自然軽快する感冒症状をきたす場合がある。潜伏期間は2～10日間。